

分野名	基礎分野	科目名	論理的思考
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	思考の形式と法則を学び、論理的で明確な言葉づかいと文章表現を身につける。		
目標			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験70%、小テスト30%		
使用テキスト・教材	野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年		
履修にあたっての留意点	とくになし		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	論理的に思考するとは？	講義	兼任講師
2.	接続表現	講義	兼任講師
3.	論証	講義	兼任講師
4.	演繹	講義	兼任講師
5.	推測	講義	兼任講師
6.	価値評価	講義	兼任講師
7.	自分で論証してみよう	講義	兼任講師
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	基礎分野	科目名	情報科学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	兼任講師		
目的	情報と情報システムについて理解し、医療・看護へ応用する能力を養う。		
目標			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験70% 提出課題30%		
使用テキスト・教材	なし		
履修にあたっての留意点	・ほぼ毎回、授業前に期限付きのプレテストを実施し、評価に加える		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	オリエンテーション、電子メールの仕組み、メールアドレス配布	講義・演習	兼任講師
2.	電子メールの仕組み、情報セキュリティ(不正アクセス)	講義・演習	兼任講師
3.	インターネット上の情報の信頼性・ワープロソフトの基本操作	講義・演習	兼任講師
4.	互換性、ファイル形式と拡張子・テキストデータ処理 表計算ソフトの基本操作	講義・演習	兼任講師
5.	ハードウェアとソフトウェア 統計学1:記述統計学・ピポットテーブル	講義・演習	兼任講師
6.	統計学2:平均・分散・標準偏差	講義・演習	兼任講師
7.	統計学3:確率分布・正規分布の性質	講義・演習	兼任講師
8.	統計学4:推測統計学・統計的仮説検定	講義・演習	兼任講師
9.	統計学5:t検定	講義・演習	兼任講師
10.	統計学6:回帰分析と相関分析	講義・演習	兼任講師
11.	プレゼンソフトの基本操作・アナログ情報のデジタル化	講義・演習	兼任講師
12.	コンピューターネットワーク 統計学7:順序尺度の実例、プレゼン資料のデザインとグラフの調整	講義・演習	兼任講師
13.	プレゼン資料作成の注意・プレゼン資料の作成	講義・演習	兼任講師
14.	プレゼンテーションの実践	講義・演習	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	応用物理学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	人間生活における物理的事項や人体に関連した物理現象を取り上げ看護行為に応用することを学ぶ。		
目標			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験70%、レポート30%		
使用テキスト・教材	医療系のための物理<第2版> 東京教学社		
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回配布する「確認問題」、時々配布する問題集の問題はマスターすること。 ・レポートはA4のレポート用紙の表のみを使用し、指示された日か次の講義日に提出すること。 ・疑問点は質問するか、リアクションペーパーに記すこと。 		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	講義ガイド(講義概要他) 測定と医療機器	講義	兼任講師
2.	検査値の単位 溶液濃度と国試	講義 問題演習	兼任講師
3.	力のつり合い ポディメカニクス	講義	兼任講師
4.	慣性の法則 運動と力の法則	講義	兼任講師
5.	力学的エネルギー保存の法則 歩行の物理学(実験)	講義 体験実習	兼任講師
6.	静止流体 酸素ボンベと国試	講義 問題演習	兼任講師
7.	運動流体 点滴(実験)	講義 体験実習	兼任講師
8.	点滴速度と国試 心臓と血圧(物理学の視点から)	問題演習 講義	兼任講師
9.	血圧測定 肺の働き(物理学の視点から)	講義	兼任講師
10.	温度と熱 体温と体温測定	講義	兼任講師
11.	波と振動の法則 音波と脈波	講義	兼任講師
12.	復習用の計算問題 光について	問題演習 講義	兼任講師
13.	電気の基礎 人体と電気	講義	兼任講師
14.	原子核と放射線 人体と放射線	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	心理学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	人間の行動の基礎にある原理を学ぶ。 自己の心理、対象の行動・知能・性格・情緒などを理解することをめざす。		
目標			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 講談社		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	授業ガイダンス 心理学史(ギリシャ人間哲学～心理学研究室創設)	講義・演習	兼任講師
2.	心理学史(近現代の心理学研究) 学習心理学(生得的行動、初期学習、古典的条件づけ)	講義・演習	兼任講師
3.	学習心理学(オペラント条件づけ、知覚運動学習)	講義・演習	兼任講師
4.	学習心理学(学習性無力と帰属スタイル理論)	講義・演習	兼任講師
5.	発達心理学(遺伝論・環境論・相互作用論)	講義・演習	兼任講師
6.	発達心理学(認知的発達、発達課題、「母性的」養育)	講義・演習	兼任講師
7.	コミュニケーションの心理学(2者関係の成立・発展)	講義・演習	兼任講師
8.	コミュニケーションの心理学(交流分析とゲーム理論)	講義・演習	兼任講師
9.	精神分析学(フロイトの理論)	講義・演習	兼任講師
10.	精神分析学(防衛機制、欲求とストレス)	講義・演習	兼任講師
11.	パーソナリティ心理学(類型論、特性論、相互作用論)	講義・演習	兼任講師
12.	パーソナリティ心理学(パーソナリティ障害、アセスメント)	講義・演習	兼任講師
13.	臨床心理学(カウンセリング、臨床技法)	講義・演習	兼任講師
14.	講義の振り返り、国家試験と心理学	講義・演習	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	教育学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	教育と人間の成長発達の間係を学び、看護の機能としての教育的役割を果たす。さらに専門職としての生涯学習の必要性を理解する。		
目標	看護に携わる専門職の前提として、人間に対する洞察、人間の成長・発達、人間の学びについて学ぶことを目標とする。毎回の授業では子どもや大人の生きる上での困難や課題について学び、それらを支援するとはどういうことか考察する。ただ講義を受けるのではなく、グループワークや映像の視聴などを通して、受講者各自が深く考察し、自らの教育観を形成していくことを目指す。		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 各回の授業における参加度・考察レポート(40%)及び最終試験(60%)によって評価します。		
使用テキスト・教材	適宜授業時に資料を配布します。		
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の度に毎回振り返りを記入してもらいます。 ・最終試験のためにもノートをしっかりとること。 		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	教育の意義と目的 I・カントの言葉やオオカミに育てられた少女の事例から、教育とは？を考える。教育の目的、生きる力について学ぶ。	講義及びGW	兼任講師
2.	いのちの教育 子どもの自殺・いじめ・不登校の事例から、人間のいのちを育む教育という営みを考える。	講義及びGW	兼任講師
3.	発達課題と教育 様々な発達段階・発達課題について学んだのち、受講者自身の発達を振り返り、子どもが大人になるとは？を考える。	講義及びGW	兼任講師
4.	子ども虐待と大人の役割 子ども虐待の現状と課題について学んだ後、自分たちに何が出来るのか、GWを通して考える。	講義及びGW	兼任講師
5.	人はどのように学んできたのか 古典的学習理論・方法を学んだ後、今求められているアクティブ・ラーニング、ICT教育について学ぶ。	講義及びGW	兼任講師
6.	特別支援教育① 特殊教育から特別支援教育へ、発達障害へ着目、互いに承認し合う学級づくりなどを学び、障害について考える。	講義及びGW	兼任講師
7.	特別支援教育② インクルーシブな社会とは何か、重度の先天性障害新生児のいのちとインクルーシブ体育について学び、考える。	講義及びGW	兼任講師
8.	不登校の児童・生徒は何を求めているのか 隠れ不登校まで含めると40万人以上と言われる不登校の実情を学び、彼らが何を求めているか考える	講義及びGW	兼任講師
9.	引きこもりを生み出す日本の社会と学校 今日本社会に数十万人いると言われる引きこもりの現状・対策・課題について学び、何が出来るか考える	講義及びGW	兼任講師
10.	学習の評価と「生きる力」 現代日本の学校教育における学習評価論を整理した上で、ソクラテスの思想と比較し、生きる力論を批判的に考える。	講義及びGW	兼任講師
11.	幼児教育と少子化 少子化問題と幼保の制度的な課題を学び、自分たちが子育てしやすい社会について具体的に構想する。	講義及びGW	兼任講師
12.	死生観とデス・エデュケーション 人間が困難な人生を生き抜く上で常に問われる死生観について、ゲームを通して自他のそれを見直していく。	講義及びGW	兼任講師
13.	外国人労働者の子どもと教育 日本国内で異文化を抱えつつ成長する子どもについてその現状を学び、人間の学び・成長とは何か考察する。	講義及びGW	兼任講師
14.	講義のまとめと生涯学習 本教育学授業全体を振り返るとともに、現代日本における教育と人間の学びについて総合的に考察する。	講義及びGW	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	哲学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	3	開講期間	通年
担当教員	兼任講師		
目的	人間存在の基盤である身体とその行為を通してなされる表現そして存在との関係によって形成される世界について考察し、人間らしさとは何かを問う。		
目標			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示すレポート		
使用テキスト・教材	看護師の臨床の「知」 医学書院		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	現代社会を哲学する(その1)	講義	兼任講師
2.	現代社会を哲学する(その2)	講義	兼任講師
3.	現代社会を哲学する(その3)	講義	兼任講師
4.	現代社会を哲学する(その4)	講義	兼任講師
5.	現代社会を哲学する(その5)	講義	兼任講師
6.	臨地実習を哲学する(その1)	講義	兼任講師
7.	臨地実習を哲学する(その2)	講義	兼任講師
8.	臨地実習を哲学する(その3)	講義	兼任講師
9.	臨地実習を哲学する(その4)	講義	兼任講師
10.	臨地実習を哲学する(その5)	講義	兼任講師
11.	これからの医療ケア人生を哲学する(その1)	講義	兼任講師
12.	これからの医療ケア人生を哲学する(その2)	講義	兼任講師
13.	これからの医療ケア人生を哲学する(その3)	講義	兼任講師
14.	これからの医療ケア人生を哲学する(その4)	講義	兼任講師
15.	まとめ(「私」にこだわりながら共生の道をさぐる)	講義	兼任講師
16.			

分野名	基礎分野	科目名	社会学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・医療関係者としての社会的知識を取得する。 ・現代社会における家族の在り方を理解する。 ・医療関係者の現状と課題を理解する。 		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間家族の特質の理解 ・少子化、核家族、ライフサイクルの変化、高齢社会の理解 ・家族看護のあり方 ・医療関係者の現状の理解 ・性、ジェンダーの現状の理解 		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験80%・レポート20%		
使用テキスト・教材	系統看護 基礎5 社会学 医学書院 系統看護 別巻 家族看護学 医学書院		
履修にあたっての留意点	授業中に適時、参考資料を配布、文献の紹介をする。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	社会学の基礎概念:行動と行為、相互作用	講義	兼任講師
2.	集団論、組織論(未組織集団)	講義	兼任講師
3.	組織集団(官僚制組織)	講義	兼任講師
4.	社会調査	講義	兼任講師
5.	家族の形態と家族構造の変遷	講義	兼任講師
6.	家族看護(ライフサイクルと家族)、高齢化社会の現状	講義	兼任講師
7.	現代家族の問題点(出生率の低下・非婚化)	講義	兼任講師
8.	家族看護の展開	講義	兼任講師
9.	健康、病气行動と病経験、社会格差	講義	兼任講師
10.	わが国の医療関係者の現状	講義	兼任講師
11.	保健医療の専門職	講義	兼任講師
12.	医療関係者とコミュニケーション	講義	兼任講師
13.	性・ジェンダー:家族と保健医療	講義	兼任講師
14.	2025年問題	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	人間関係論 I
単位数	2	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	自己を振り返り、自己のあり方に気付くこと、他者との関係性を築き、相互に成長していくためにアサーティブコミュニケーションについて学習を深める。		
目標			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す リアクションペーパー25% グループワークおよび演習態度(積極性/傾聴力)25% 筆記テスト50%		
使用テキスト・教材	仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	オリエンテーション なりたい自分になろう	講義 演習 グループ	兼任講師
2.	自分から出る 表現しないことも表現していることになることに気付く	講義 演習 グループ	兼任講師
3.	コミュニケーションの基本センスをみがく 「聴く」を表現する・非言語的コミュニケーション	講義 演習 グループ	兼任講師
4.	コミュニケーションの基本センスをみがく 「話す」	講義 演習 グループ	兼任講師
5.	気持ちを受け止める メッセージの背後にあるもの	講義 演習 グループ	兼任講師
6.	「感じる」を大切にする メッセージのオーラを見てみよう	講義 演習 グループ	兼任講師
7.	気持ちを受けとめる表現 まず受け止める表現を習慣づけよう	講義 演習 グループ	兼任講師
8.	準拠枠とは 共感、同意、みんなちがってみんないい	講義 演習 グループ	兼任講師
9.	1回1回の対応を大切に 丁寧なコミュニケーションは日々の積み重ね	講義 演習 グループ	兼任講師
10.	読み取る力・表現する力	講義 演習 グループ	兼任講師
11.	相手を受け止めつつ、いかに自分のを主張するか アサーティブ・コミュニケーションとは	講義 演習 グループ	兼任講師
12.	相手を知り、相手を生かす	講義 演習 グループ	兼任講師
13.	質問・インタビュー	講義 演習 グループ	兼任講師
14.	笑いあう関係を育てていくこと	講義 演習 グループ	兼任講師
15.	テスト まとめ	講義	兼任講師
16.			

分野名	基礎分野	科目名	人間関係論Ⅱ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	自己と他者との相違に気付き、他者理解の重要性を知る。 他者理解にもつながる自己開示のプロセスを知り、自己表現に組み込めることを目指す。 他者とチームアップするために必要なリーダーシップとメンバーシップについて学び自己の行動に反映させる。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己開示のメカニズムを知る。 ・自己開示に必要な自己認知や自己表現を8個の表現要素で実践する。 ・個人内コミュニケーションの重要性を知る。 ・リーダーシップ、メンバーシップ等をチームビルディングのプロセスから体験する。 		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示すレポート100%		
使用テキスト・教材	なし		
履修にあたっての留意点	第1回(4月)には、運動のできる服装が望ましい。スカートは不可。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	アイスブレイク、自己開示	講義・演習	兼任講師
2.	アイスブレイク、自己開示	講義・演習	兼任講師
3.	「コミュニケーションとは」の振り返り 課題「自己開示とは」の提出・自己開示のメカニズム	講義	兼任講師
4.	自己開示のメカニズム。返報性とは。 他者とのやり取りを通して自己開示とフィードバックの体験	講義	兼任講師
5.	自己開示の手前にある自己表現について 8つの要素を作って説明→理解してつなげる	講義	兼任講師
6.	「8つの表現容素」の活用 自己顕示にならない自己表現の実践	講義	兼任講師
7.	校外学習代替プログラムのガイダンス 校外学習において自分が取り組みたい「他者とのかわり方」について明確化	講義	兼任講師
8.	校外学習代替プログラム	体験学習	兼任講師
9.	校外学習代替プログラム	体験学習	兼任講師
10.	校外学習代替プログラム	体験学習	兼任講師
11.	校外学習代替プログラム	体験学習	兼任講師
12.	校外学習代替プログラム振り返りからコミュニケーションについて考える自己開示のプロセスから自分の在り方を振り返る	講義	兼任講師
13.	看護師として、他者と人間関係を築くための自分の取り組みを明確化し、具体的な目標を設定する	講義	兼任講師
14.	課題学習	課題学習	兼任講師
15.	課題学習	課題学習	兼任講師
16.			

分野名	基礎分野	科目名	倫理学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	倫理とは何か、生命の尊厳と人権擁護について理解し、医療現場に山積する倫理的問題について考えることによって、倫理観を養う。		
目標	さまざまな倫理的問題について、自分で考え、自分のことばで意見を表明できるようになることを目標とする。		
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 中間レポート40% 期末レポート40% 参加点20%		
使用テキスト・教材	『医療の倫理』 岩波書店(新書)		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	倫理とは何か。	講義	兼任講師
2.	「わたし」を問う。 生老病死の有り様を考える (1)	講義	兼任講師
3.	「わたし」を問う。 生老病死の有り様を考える (2)	講義	兼任講師
4.	「わたし」を問う。 生老病死の有り様を考える (3)	講義	兼任講師
5.	「わたし」を問う。 生老病死の関係を考える (1)	講義	兼任講師
6.	「わたし」を問う。 生老病死の関係を考える (2)	講義	兼任講師
7.	「わたし」を問う。 生老病死の関係を考える (3)	講義	兼任講師
8.	まとめ (中間レポート)	講義	兼任講師
9.	『医療の倫理』を読む (1)	講義	兼任講師
10.	『医療の倫理』を読む (2)	講義	兼任講師
11.	『医療の倫理』を読む (3)	講義	兼任講師
12.	『医療の倫理』を読む (4)	講義	兼任講師
13.	『医療の倫理』を読む (5)	講義	兼任講師
14.	臨地実習について	講義	兼任講師
15.	まとめ (期末レポート)	講義	兼任講師
16.			

分野名	基礎分野	科目名	環境学
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	2	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	人間と環境との作用から健康に影響を与える因子について理解し、看護活動に活かす。		
目標			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門基礎 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	はじめに～公害事件	講義	兼任講師
2.	食の安全	講義	兼任講師
3.	化学的環境因子(一般大気)	講義	兼任講師
4.	上水道と下水道 それぞれの仕組みと健康とのかかわりについて	講義	兼任講師
5.	水質汚濁(廃棄物) 汚染の原因と健康・環境への影響	講義	兼任講師
6.	化学的環境因子(大気汚染と呼吸器疾患)	講義	兼任講師
7.	物理的環境因子(温熱・騒音振動・放射線の健康への影響)	講義	兼任講師
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	基礎分野	科目名	医療英語
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	国際化に対応するために、実践的な看護場面での英会話の基本と英文文献の読解力を養う。		
目標			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	やさしい看護英語(How are you Feeling Today?) 成美堂 事例で学ぶ看護英語 成美堂		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	Unit1. 安全な生活環境 (リーディング) 授業説明	講義、グループワーク	兼任講師
2.	Lesson1. In the Lobby of the Hospital (英会話) Unit2. 身体の清潔(リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
3.	Lesson2. Registrarion (英会話) Unit3.呼吸困難の看護 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
4.	Lesson3.Checking the Registration Card (英会話) Unit4.体液バランス(リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
5.	Lesson4.Finding the Way (英会話) Unit5.睡眠と心の健康 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
6.	Lesson5.Personal History (英会話) Unit6.リウマチ患者の介護 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
7.	Lesson6.Daily Activities (英会話) Unit7.摂食障害と食事指導 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
8.	Lesson7.More about Daily Activities (英会話) Unit8.膀胱カテーテル留置(リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
9.	Lesson8.Asking about Symptoms (英会話) Unit9.排泄とその援助 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
10.	Lesson9. More about Symptoms (英会話) Unit10.リハビリテーションとケア (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
11.	Lesson10.Checking Blood Pressure and Weight Unit11.小児のやけど	講義、グループワーク	兼任講師
12.	Lesson11.Laboratory Specimens (英会話) Unit12.加齢に伴う健康問題 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
13.	Lesson12.Taking Medicines (英会話) Unit13.手術前・後の看護 (リーディング)	講義、グループワーク	兼任講師
14.	Unit14.Memory Impairment 認知症 (リーディング) Unit15.生活習慣と健康 (リーディング)	グループワーク	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	基礎分野	科目名	芸術
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	専任講師*、兼任講師 *実務経験のある教員		
目的	地域の郷土芸術をはじめ、さまざまな芸術を通して、豊かな人間性の創造をめざし、感性を磨く。		
目標			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 出席状況・授業態度・レポート 100%		
使用テキスト・教材			
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	オリエンテーション・音楽と医療の関連性	講義	兼任講師
2.	体操 ボディパーカッション CD鑑賞	演習 鑑賞	兼任講師
3.	体操 ボディパーカッション CD鑑賞	演習 鑑賞	兼任講師
4.	体操 ボディパーカッション CD鑑賞	演習 鑑賞	兼任講師
5.	体操 ハンドベル CD鑑賞	演習 鑑賞	兼任講師
6.	体操 ハンドベル CD鑑賞	講義 鑑賞	兼任講師
7.	体操 ハンドベル CD鑑賞	演習 鑑賞	兼任講師
8.	体操・発声練習 合唱(ほたる) CD鑑賞 ※変更の可能性あり	演習 鑑賞	兼任講師
9.	体操・発声練習 合唱(ほたる) CD鑑賞 ※変更の可能性あり	演習 鑑賞	兼任講師
10.	体操・発声練習 合唱(ほたる) CD鑑賞 ※変更の可能性あり	演習 鑑賞	兼任講師
11.	体操・発声練習 合唱(ナイチンゲール讃歌) CD鑑賞 歌遊び(どんぐりころころetc) ※変更の可能性あり	演習 鑑賞	兼任講師
12.	発声練習 音楽療法について・CD鑑賞(ストレスvsリラクゼーション)	講義 鑑賞	兼任講師
13.	映画鑑賞・音楽鑑賞・絵画鑑賞	鑑賞	専任講師*
14.	映画鑑賞・音楽鑑賞・絵画鑑賞	鑑賞	専任講師*
15.	映画鑑賞・音楽鑑賞・絵画鑑賞	鑑賞	専任講師*
16.			